

令和6年度 研究概要

<p>所属名</p> <p>総合教育センター</p>	<p>研究会議名</p> <p>指導主事研究会議</p>
<p>研究主題</p>	<p>個別最適な学びへの教育データ利活用に関する考察</p> <p>— 1人1台端末におけるダッシュボードの構築を通して—</p>
<p>資質・能力</p> <p>育成を目指す</p>	<p>児童生徒：教育データをもとに自分自身を振り返り、学習や生活をよりよくできる力</p> <p>教職員：教育データを利活用することで得られるエビデンスに基づいて学校の教育活動を実施し、一人一人に応じた適切な指導・支援を図り、個別最適な学びを実現させる力</p>
<p>研究内容</p>	<p>令和4年1月に、デジタル庁、総務省、文部科学省、経済産業省が「教育データ利活用ロードマップ」を示し、「誰一人取り残されない、個別最適な学びと協働的な学びの実現」を目指す姿として「すべての子供たちの力を最大限に引き出すことに資するよう、教育データの効果的な利活用を促進する必要がある」とした。令和5年6月16日に閣議決定された「教育振興基本計画」においては、教育データの利活用を含めた「教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進」が5つの基本的な方針の1つとして位置づけられている。</p> <p>これらの国の動向に対し、本市においては第2次かわさき教育プラン第3期実施計画で教育データの利活用を基本政策の中の1つの取組として位置付けている。また、令和4年3月に策定した「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」では、重要事項の1つとして「学習データの活用の検討」が掲げられており、GIGA 端末における教育データの利活用について、その目的や方法を明らかにして取組を推進することは喫緊の課題である。一方、令和6年4月の全国学力・学習状況調査における場面ごとのICT活用頻度を問う学校質問紙調査の結果から、個別最適な学びに対する端末の活用に課題があることが分かった。そこで、本研究では、個別最適な学びを実現するための教育データの利活用に焦点を絞り、本市の研究機関である総合教育センターの令和6年度センター指導主事研究に位置付け、各室の枠組みを越えて取り組むこととした。</p> <p>まず、令和6年3月の教育データ利活用に関する有識者会議による「教育データ利活用の実現に向けた実効的な方策について」をもとに、本市における教育データの利活用の目的を整理し、次の2点を視点として検証を行うこととした。</p> <p>①児童生徒は教育データをもとに自分自身を振り返り、学習や生活をよりよくできているか</p> <p>②教職員は教育データをもとに一人一人に応じた適切な指導・支援を図ることができているか</p> <p>次に、現存の教育データを洗い出し、他自治体の取組状況を調査した。そのうえで、GIGA 端末において、学習の振り返り、生活の振り返り、学習状況調査、体力・運動能力調査、端末活用状況の5つの教育データの可視化ができるダッシュボードの構築を行うこととした。</p>